

世界的チョコレート工場とタイアップした直売施設

全国山村振興連盟事務局長 實重重実

山村振興全国連絡協議会の北海道・東北ブロック会議で、10月24日札幌、25日当別町にお邪魔しました。10月のこの季節は抜けるような青空に紅葉の黄色や紅色が生えて、札幌周辺の森は夢のような美しさでした。

2日目の現地視察の際に、札幌から日本海側に抜ける途中にある当別町を訪問しました。当別町のマスコットキャラは「とべのすけ」。可愛らしいスズメが、三日月のついた兜をかぶっています。三日月もスズメも、伊達藩の伊達家の家紋なのだそうです。戊辰戦争に敗れた伊達藩が、明治維新の後、伊達家・家臣たちともに移住してきて開拓されたのが、当別町だったとのことでした。

そういった歴史とは別に、当別町はヨーロッパな美学を感じる街なのでした。何しろ国道から道の駅方向に入るところには、チョコレート企業ロイズの工場があって、直売施設でもロイズの商品が販売されています。

また街の一角には、スウェーデンヒルズという地区があり、700戸以上の北欧風家屋が広々とした敷地を持つ住宅街となっています。家屋の色も、赤で統一されています。かつて当別町を訪問したスウェーデンの人が、「スウェーデンに似た光景だ」と言ったことから、スウェーデンの都市と姉妹都市となり、交流し合いながら築かれて行った地域だとのことでした。当別町の高校生は、スウェーデンを訪れて、ホームステイをしているということでした。

道の駅にある直売施設は、10億円を投じた立派な施設であり、2023年に来訪者数が約100万人となりましたが、2024年には過去最高をさらに10万人上回りそうとのことでした。

集客の秘訣は、40代・50代の女性をメイン・ターゲットにしたこと。それも当別町に隣接する札幌市在住人口をターゲットにしています。

広々とした空間の美しい直売所では、新鮮な農産物を目標に札幌から人々がやってきます。贅沢気分を味わってもらうために食事のできるイタリアン・カフェは、札幌の有名レストランのシェフがプロデュースし、メニューを作っています。トイレも美しく作りました。

そうした戦略が功を奏している上に、ロイズのチョコレート工場とのコラボレーションがさらに良い効果を上げています。ロイズは2023年に、観光客が訪問できる施設を含む区画をオープンしました。

これによって6月から9月までのインバウンド客は、日本一に輝いたとのことでした。インバウンド客は中国・韓国などアジア系の人が多いとのことであり、ロイズの世界的な知名度が物を言っています。

直売施設はやや年数が経ち改修が必要となっていること、冬期は農産物直売所が閉店となってしまうこと、来客数は増えたものの1人当たり客単価が低いことなどの課題があるとのことでしたが、まずは大成功している直売施設の一つと言えます。

ロイズの社長が当別町出身だったこともあって古くから工場があったとのことですが、こうした海外でも知名度の高い商品を作る企業を誘致したり、コラボレーションしたりすることが、国内だけでなくインバウンドの集客にもつながるということではないでしょうか。